

## 2024年8月8日 日向灘の地震の評価（案）

- 8月8日16時43分に日向灘の深さ約30kmでマグニチュード(M)7.1(暫定)の地震が発生した。この地震により宮崎県で最大震度6弱を観測し、負傷者が出るなど被害を伴った。また、この地震により宮崎県南部山沿いで長周期地震動階級3を観測した。
- 発震機構は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、発震機構及び震源の深さから陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震と考えられる。
- 現在も活発な地震活動が継続しており、8日16時から9日〇〇時までの間に、最大震度1以上を観測した地震が〇〇回（震度6弱：1回）発生した。
- 今回の地震により、宮崎港（港湾局）で0.5m、日南市油津で0.4mなど、高知県から鹿児島県にかけての太平洋側で津波を観測した。
- GNS S観測によると、今回の地震に伴って、宮崎観測点（国土地理院）で東南東方向に13cm程度の変動が見られるなど、宮崎県南部で地殻変動が観測された。また、陸域観測技術衛星2号「だいち2号」が観測した合成開口レーダー画像の解析によると、宮崎県南部で最大〇cm程度の隆起、最大〇cm程度の東向きの変動が検出された。
- 今回の地震は、地震調査委員会が「日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価（第二版）（令和4年3月25日公表）」で想定していた領域（日向灘のひとまわり小さい地震）で発生しており、周辺では1931年11月2日にM7.1、1961年2月27日にM7.0の地震が発生していた。なお、長期評価では、この領域ではM7.0～M7.5程度の地震が30年以内に発生する確率はⅢランク（\*1）で、海溝型地震の中では発生する確率が高いグループに分類されている。
- 過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度6弱程度の地震に注意が必要である。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあり、注意が必要である。
- 今回の地震は、南海トラフ地震の想定震源域内の南西端で発生した地震であり、南海トラフ地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時（\*2）と比べて相対的に高まっていると考えられます。

\*1：海溝型地震における今後 30 年以内の地震発生確率が 26%以上を「Ⅲランク」、3%～ 26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「X ランク」と表記している。

\*2：南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後 30 年以内に発生する確率が 70 から 80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約 80 年が経過していることから切迫性の高い状態である。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。